# 会　議　録

１　会議名

令和５年度第１回北諏訪区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活性化の方向性について（公開）

３　開催日時

令和５年５月１８日（木）午後６時３０分から午後７時４０分

４　開催場所

上越市立北諏訪地区公民館　集会室

５　傍聴人の数

２人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　高橋和彦（副会長）、大瀧修一、大舘崇雄、澤海雄一、髙橋礼子、
松矢　茂、室岡由美子（欠席者４名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

８　発言の内容

【近藤副所長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋副会長】

・挨拶

・会議録の確認：澤海委員、髙橋礼子委員に依頼

議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料№.１「北諏訪区における『地域活性化の方向性』について」、参考資料№.①「北諏

訪区の地域活性化の方向性について出された意見【再整理】」、参考資料№②「有田区、和田区、三和区における『地域活性化の方向性』」に基づき説明

本日は３点ご協議いただきたい。１点目は、資料№１の構成要素案について、この内容でよいか、文言の修正はあるか、項目の追加や削除があるか、などについてご協議いただきたい。２点目は、表題（キャッチフレーズ）部分についてご協議いただきたい。北諏訪区の〇〇〇という、個性（強み、特性）をいかして、△△△します。この〇と△の部分について、案や入れたほうがよい言葉などがあればご発言いただき、それを基に検討していただきたい。３点目は、今検討していただいている地域活性化の方向性を、地域協議会として最終的に決定するにあたり、どのように進めていくかについてご協議いただきたい。委員協議のみで決定するのか、また、北諏訪まちづくり振興会などと連携していきたいという御意見や、若い世代の方の意見を聞いてはどうかという御意見もこれまでの協議の中であったので、そのような関係団体等との意見交換を経て決定していくのか、御協議いただきたいと思う。

【高橋副会長】

初めに、事務局作成の構成要素（案）について意見を求める。

【大舘委員】

内容はよいと思うが、「地域の特性を活かしたイベント」とイベントで切れているので、国語的にどうなのかと思う。他は交流促進や取組、利活用、維持でよいかと思うが、有田地区を参考にすると、「イベントや活動の推進」などのほうがよいのではないかと思った。

【高橋副会長】

今大舘委員から、「地域の特性を活かしたイベント」で終わってしまっている、という指摘があった。他の地区を参考にすると、「イベントや活動の推進」や「イベントの実施」のように、言葉を付け加えたほうがよいと思うので、付け加えてよいか。意見を求めるがなし。

次に表題（キャッチフレーズ）の検討に入る。案や入れたほうがよい言葉など、意見を求める。

私自身は、このキャッチフレーズの中に北諏訪地区を表現するにあたり、北諏訪の特性、他にはないよいものとは何かと考え、参考資料№①を見ると、この言葉が欲しいと思うものがいくつかあった。まず、圃場整備された田園風景。田植えが終わり、これか

ら１か月くらいすると、田んぼに緑の絨毯を敷いたかのように、天気のいい日は本当にとても綺麗で、水田の後ろに妙高山麓がそびえ立っているが、山と田んぼと、青空と水の光をあびて、田んぼの中に入った水がきらきら光る。これまでその時期になると、本当に心が落ち着くというか、北諏訪地区もいい景色ではないかと思っている。また毎年、北諏訪小学校のグラウンドの桜が見事である。他の小中学校ではなかなか見ることのできない、桜満開時の景色も北諏訪らしいという思いでいつも見ている。この２点が、私の中では、文章化する際に、北諏訪の特性になるのではないかと思っている。ただ文章にするとなると、他の地区のものも見ると、ありきたりになってしまう。自然や利便性等、どうしてもそれなりの文章を作ってしまうので、本当にいいものが伝わりにくい。もう少し具体的に、北諏訪小学校の桜が素晴らしいとか、広大な田園風景は見ていてすごいというような、読まれた方がすぐわかる言葉で表現できれば、一番よいのではないかと思う。この地域は、比較的圃場整備されている水田なので、本来で言う自然ではなく、作られている。昔この辺は、田んぼの周りにたくさん木が植わっていたが、今見渡すと木は一本もないと思う。３０年４０年で、変わってきているので、年齢、世代によっては、見方や考え方が異なると思う。

【松矢委員】

地域の強みや特性をいかして何々しましょうということで、キャッチフレーズを作ろうということだと思うが、我々が前回挙げた構成要素の中に、小学校の桜等の強みが何点かあるが、逆に人口減少や災害の心配等、いいことよりも悪いことが挙げられた中に２つ３つある。活性化という意味で言えば、いいことをいかして何かしましょうということだと思うが、このような負の部分も何とかしていきましょうということで、前回挙げた。その辺を考えると、いいことばかりではないのでキャッチフレーズを決める時に非常に悩む。桜が綺麗であるとか、田園風景が近くにあっていいとか、くるみ家族園も近くにあるので、そういう施設を使う等、いい面もあるが、人口が減ってきている、高齢化になってきている。どこでも一緒だと思うが、そういう負の部分も挙げているので、その辺を、どうこのキャッチフレーズの中に入れていくかとなると非常に難しいと思う。

【高橋副会長】

資料№.１で〇〇の部分をいかして、△△の部分で何々にしますとなっているので、いかすとなると、安全で安心に暮らせるといった最終目的というか、それを目指すという方向はよいが、何をいかすかとなると、当てはまる言葉が見つからない感じがある。

【松矢委員】

強みといえば、この地区は自然の中に飯田川や田園風景といった自然の環境のある地域である。それから近くにはくるみ家族園や、小学校もあるというようなことを、うまくいかしたことにすればいいのかと思う。私はその中で地域にあるくるみ家族園や小学校等の施設、地域内を流れる飯田川、田園風景、環境をいかして、人口減少や、交流がないというようなことがあるので、多くの住民が参加できるような、楽しめるようなイベントの立ち上げを目指しましょうということで、自分なりに考えてきた。

【大舘委員】

聞いた話によると、諏訪小学校が合併されるということである。まちづくり協議会があれほど活動されている諏訪地区に、学校がなくなってしまう。北諏訪小学校の１年生までの人数をネットで調べたら、まだ１０人ぐらいいるが、同じようなことを北諏訪と諏訪がやっていて、こうやって協議していても諏訪小学校がなくなってしまう。北諏訪はまだあるが、協議していても５年後になくなるかもしれない。それを考えたときに、ここで何かいろいろやることが、どうなってしまうのかと少し思った。小学校がなくなっても、活性化はできるというのであればそうだが。諏訪のほうでも普通に協議をしているということか。

【小川係長】

２８区で同じように検討している。

【高橋副会長】

私も、その話を聞いた。諏訪地区もこれといった施設があるわけでもなく、基本的に小学校を中心とした活動という、北諏訪に似たような地域ではないかと思う。児童数が、３０人に満たなかったと思う。北諏訪は今７０人いる。同じ児童数の三郷小学校も、今度統合ということで、そうなると北諏訪も他人事ではないという感じを受けている。地域としては、小学校を守っていきたいというのは当然だが、実情や、将来的に見たときにどうなのかという部分で考えると、致し方ない部分もあるのかと思う。そこに踏み切るまでは、かなり協議を重ねてこられたと思うし、北諏訪にとって本当に危機感を、まだ感じるほどではないが、将来的にこの北諏訪区の特性を守っていかないといけないなと思うことがあれば、地域の方々と一緒に守っていきたいと思うし、また広めていきたいと思う。

キャッチフレーズについて、他に意見を求める。

【室岡委員】

他の地域の例を見たが、やはり豊かな自然と交通の利便性という言葉が出てくる。高橋副会長はもう少し具体的な言葉を入れたほうがいいと言われるが、そのぐらいしか思いつかなかった。

【高橋副会長】

確かにここは病院や駅、直江津東中学校等、買い物に行くとしても利便性が高い。しかし、この地域は車での移動が交通手段なので、車を持ってないと不自由である。近所にお店もないし、スーパーもないので，その辺が少し不自由である。一定の基準がどこかはわからないが、住んでいて決して不便な地域ではない。

【室岡委員】

まだ今のところ、車の運転ができるので行動範囲も広い。しかし運転されない高齢の方等は、遠ければ利便性が悪い。お店もないし郵便局もない。コンビニも歩いて２０分も３０分もかかってしまう。考えてみると何にもない。

【高橋副会長】

本来であれば、そのような不便な方の意見も取り入れてやれればいいのだが、お金の面等、すぐ取りかかれるものでもない。高齢化社会と言われている中で、こういった問題をまたさらに真剣に考えていく。だんだんそういう方が多くなってくる。

【室岡委員】

私も民生委員をやっているので、そういう方たちと接触する機会が結構あので、そういう方たちを見ていると、もう少しこの地区として何かないかと思っている。

【高橋副会長】

名立区では、名立区まちづくり協議会が免許のない方、車に乗られない方がスーパー等へ行けるように、車を持っている。７人乗りのミニバンで、買い物に行けない方ために区内を回る等活用されているようである。そういうものがあるといいと思う。

【室岡委員】

そこまでいくには、お金もかかるし、人も探さなくてはいけない。

【高橋副会長】

お金もかかる。維持等誰がそれを管理するのか、いろいろな問題も出てくるが、そういったところもある。

【室岡委員】

利便性とは言いながら、いいことではなくて不便だということで、頭にとっておかないといけない。

もう一つ、その△△の部分だが、他の区の「あらゆる世代が住みやすい地域を目指します」という言葉がよいと思った。具体的にと言われると、今話したことも含まれるのではないか。

【高橋副会長】

この△△の部分は、北諏訪区の住民皆さんに対応するような言葉がよいと思う。高齢者と入れてしまうと、若い者や子どもたちはどうなるんだと突っ込まれる。確かに文章にするとすごく難しいと思う。それなりの文章でよいのであれば多分作れるが、何を言っているのかという部分が出てくる。確かに北諏訪区は自然もあり、利便性も決して悪くない。盛んな産業は正直農業ぐらいではないか。今農家も減っているので、対象にならない人のほうが圧倒的に多い。

【室岡委員】

産業で農業の話があったが、福橋のほうを見ると工業団地がある。そこを見るとまるっきりの農村地帯ではないのではないか。誘致したから工場があそこにあるのだろうが、勤務している人たちが北諏訪にどういう貢献してくれるのか、それは関係ないかもしれないが、まるっきりの農業地帯ではないと思う。

【高橋副会長】

キャッチフレーズとしてまとまった感じではないが、他に意見はないか。

【大舘委員】

今私の中で二つのこと考えていて、自然とか、利便性とか、安全安心のまちづくり等、そういう言葉を入れれば作れるが、高橋副会長が言われたようにどこの地区でも一緒だと思う。松矢委員が言われたように、いい部分と負の部分もある。私自身も、意見を言わないのは、これというものがないと思っている。作ることは作れる。項目も出せるが、我々北諏訪区地域協議会も当たり障りないフレーズでいくか、もっとインパクトのある、他の地区とも全然違うものにするか。東国原さんではないが、北諏訪を何とかしなきゃいけん、というフレーズにしてしまうかと考えたけれども、全体としてはまずいだろうなと思いながら考えていた。自然や利便性、交通、安全安心なのだろうと思う。

【高橋副会長】

私自身は、インパクトがあった方が、この地域を出しているというか、周りがどう評

価しようとも、北諏訪としてはこうだという個性があって、よいのではないかと思う。読まれる方によっては、ふざけたように思われる方もいらっしゃるかと思うが、与えるインパクトとしては、その方が、ありきたりな文章ではなく、北諏訪の広告、いいところ、負の部分は当然あるが、それに対しての改善していくような言葉を入れたほうがいいかというと、私はインパクトの強いほうがいいと思う。

【松矢委員】

北諏訪の５年後１０年後を考えると、たまたま今年小学１年生が１０人だが、多分それは福橋に新しく家を建てた若い世代が何軒かあるからである。朝見ると、福橋から来る子供たちが去年よりずっと多くなっている。今年は多かったが将来的に見ると、多分減っていくだろう。どこの家を見てもわかるように、若い世代は親と一緒に住んでいない。家に残っているのは高齢者のみという家が多く、先を考えると自分も将来どうなるのかと考える。例えばうちの隣も高齢者で１人だが、買い物も行けない、病院も行けない。近所の知り合いの方が病院や買い物に連れて行ったりしている。この地区はまだ町場が近いから、移動販売のようなものがないので、身内が近くにいなければ、知り合いを頼ったり、食材を運ぶ会社もあるので、そういったところを頼ったりして生活している。年を取った時に心配である。名立区のように、買い物の送迎のような制度も、この地区ではそれほど先ではなく必要になってくるのではないかと思う。そのようなこともキャッチフレーズの中に書いて、いいことばかりではなく、悪いことも何とかして高齢者でも住みやすい地区にしましょう、というものにしてはどうかと思う。

【高橋副会長】

住みやすいはポイントだと思う。どの世代においても、年をとっても安心。特に大雨になると、飯田川の水害で嫌な思いをする地域の方もいらっしゃる。大雨警報が出ると、また浸水するのではないかと、そんな不安を毎年背負いながら生活するのは、やはり精神的苦痛である。

【松矢委員】

保倉川放水路ができない限りは、私たちは安心して生活できない。いつも大雨注意報がでるとドキドキして水位を見に行ったりしている。それは１０年後、２０年から３０年先しかできないだろうと思う。

【高橋副会長】

自然災害ばかりはいつどのようになるか、先が読めるものではないが、来た時に、あ

る程度対応できるような改修等をしていかなければ、そこに住んでいて、不安を抱えながら生活するのは、毎年それを経験している人にしてみれば嫌なものだろう。決して住みやすい地域ではない。

【澤海委員】

無理やりキャッチフレーズを作ることになれば、皆さんと同じように、さくらの学校、景観、安全安心、そういうことになるわけだが、長い間行政にいて、地域活性化ということを市全体として考えてきていた。北諏訪もそうであるが、旧１５区の中の農村地帯は、どこもそんなに特徴がない。改めて、強みや特性をキャッチフレーズに入れて、地域独自の予算を作ろうとしている意図がよくわからないが、その地域独自のものを出さなければ、北諏訪には目を向けてくれないのかという不安が逆にある。そうではなく、行政は、ある程度公平に見なければいけないはずである。例えば、どうしても何か作らなければいけないのであれば、活性化といえば、人口である。構成要素の３番目にある、人口減少を緩やかにするための取組で、住む人のいない家がどこでも増えてきているわけだが、そういったところを壊して売るとなると、ものすごくお金が掛かるので、どこも難しいようである。リニューアルして、地域でも新しく入ってきた人たちに住みやすいような住民同士の触れ合いというような環境を作っていく努力をするというようなことをやって、少し強めのキャッチフレーズにするというのも一つかなと思う。それは我々だけで作っていいのかということがあって、その辺が、地域協議会で作るキャッチフレーズとはいったい何なのかということがあると思う。

【高橋副会長】

澤海委員が言われた住む人のいない家は、今は空き家とは言わず、留守宅と言うようになったようだ。留守宅をリニューアルしたり不動産としての売却は、何軒もないと思う。

【澤海委員】

住宅を壊したり、蔵を壊したり、それで何百万もかかるから手をつけたくないというのが本音ではないか。そこまでやると大変だから、リニューアルと言った。

【高橋副会長】

私の知る限りでは、家を改築してそこに若い方が住んだという家が、上千原に何軒かある。

【大瀧修一委員】

ネックは屋敷の中にお墓があると売れない。上千原では、留守宅は４、５軒ある。あと１０年すると１０軒を超えてくるのではないか。日本の人口自体がどんどん減ってきているので、３分の１ぐらい減る予測は出ている。

私はキャッチフレーズの中で言うと、暗い話を出すのはあまりよくないのではないかと思い、最初に考えたのは、北諏訪小学校の校歌に自然がみんな歌われている。飯田川にしろ妙高山にしろ、稲穂もある。そういったものから取って、自然環境に恵まれている地域だというイメージから、キャッチフレーズを明るい方に持っていった方がよいのではないかと思って考えていた。小学校の校歌は１番から３番まであるが、全部入っている。「紫におう妙高に」、「緑にかおる学び舎に」、「飯田の流れとこしえに」と、よいことが皆入っているので、それを利用しない手はないのではないかと考えている。

【松矢委員】

活性化ではないが、やはり人口を増やす方向でないと活性化にならないのか。自然がありますから人来てくださいと言っても、なかなか来ない。

【高橋副会長】

２８区の中で、人口増している区は何区ぐらいあのか。

【小川係長】

今把握しているのは有田区である。

【澤海委員】

町場の留守宅と、我々のところを比べると、町にはもう誰も入ってこない。こちらの方がまだ可能性があると聞いた。それは例えば、東頸とか、そういった人が、仕事の関係で下りてこようとすると広い土地が欲しいという、その強みがここにはあるのだと思う。

【大舘委員】

ずっと言っており、先ほども出たが、ここで我々だけで決めていいのか。地域協議会委員になり７年だが、私達のあり方はどうあるべきか。本当は地域の皆さんの活動いろいろあって、地域協議会でこうだというのがあって。昔は市議会や、市長へ陳情ということをしていたらしい。今ここで考えても、誰かがどこかでやってくれることをお任せするような感じに受けてしまう。安全安心なまちの維持で、地域で予算が組めればいいが、そういうことも厳しくなって、以前のように計画して出さないと予算をくれないから、地域でやらなくてはいけない。行政の力や市議会議員、県会議員の選挙もあったが、

選挙前以外はあまり議論する機会がない。

【澤海委員】

新聞に、中郷で市会議員の方々が住民と話し合いをしたという記事があったが、市会議員の方が１０何人出ていたが、地元は１０人ぐらいで、議員の方が多かった。市議会議員も迷っていると思う。

とりあえず、作るのであれば、先ほど意見が出たように、やはり学校を存続させたいということが、みんなの強い意識だと思う。桜の学校を中心として、田園風景や飯田川、そういったことで、誰もが、安全安心で住みやすい地域を作るというようなことで、一応できるが、それでいいかどうか。学校に関しては、教育委員会がどう考えているかもある。諏訪小学校は児童数が２７人で、随分昔から全学年が複式だった。北諏訪小学校は幸いにも複式が１学級もない。だが理想的な学級の人数が２０人、２５人というと、１０人というのは理想的ではない。教育委員会の考え方次第では、７０人でも合併となる可能性もあるわけで、市がどう考えているのかというところである。

【高橋副会長】

皆さんからいろいろな意見を出していただいたが、この場で今日まとめるのは難しいと思う。今日出された意見で協議を踏まえて、事務局にまとめてもらい、次回の会議でキャッチフレーズの決定に向けていきたいが、それでよいか。

【澤海委員】

それでよいと思うが、とりあえずこの会で決めてしまうか、まちづくり振興会等と意見交換するかは、ある程度見通しを立ててもよいのではないか。

【小川係長】

地域協議会としての素案を作った上で、それを最終的に決定するにあたり、そのまま委員の協議だけで決めるのか、まちづくり振興会と意見交換をしながら最終的に決定していくのかを、話し合っていただきたいと思う。

【高橋副会長】

澤海委員、北諏訪まちづくり振興会で、議題の一つとできるか。

【澤海委員】

まちづくり振興会自身が、意見をまとめるのが大変である。時間がない。

【大舘委員】

同じことを何回も言っているが、ここで決めても我々は動けない。構成要素が具体的

に挙がっており、キャッチフレーズは決めてもよいが、お願いをしなければいけない。その時に、どこかで意見交換は必要だと思う。構成要素の具体的なものを進めてもらうのは、実際に動いてもらう団体との話し合いを持たなければ何も進まない、実現しない。先がわからないが、全体のキャッチフレーズの案を決めて、地域協議会と、まちづくり振興会さんと協力して進めていってはどうか思う。

【佐藤所長】

他の区では、地域協議会で案をまとめていただき、その後、意見交換の団体を選び、日を改めて意見交換会を行っている。そこで出た意見を地域協議会にフィードバックして、最終的にそこで決定するという流れが他の地域協議会でもあった。

【高橋副会長】

北諏訪まちづくり振興会があり、その中にさらにいろいろな団体がある。まちづくり振興会との意見交換だけでなく、若い方だけで構成されている団体等もある。世代によって出てくる言葉や、要望等は変わってくると思うが、意見交換会を設けるのはよいことだと思う。私たちがいつも同じメンバーで会議をしても、それほど極端な変化はないと思うが、若い方は私たちと全く価値感や生活感が違ったりする。北諏訪の１０年後２０年後を見据えるにあたっては、そういった意見も参考にしていくのも必要ではないか。今日、慌ててここで決めるのではなく、他の団体と意見交換会の場を設け、そこで今回の話を議題に入れて、いろんな意見をいただくという方向で進めるのがよいのではないか。

【松矢委員】

キャッチフレーズは、かっこいいものでいいと思う。具体的には、ここに構成要素が５つ挙げてある。それを具体的に一つずつ、例えば今年はこれというように。動こうとしたら、みんなまとめてうまくいくような事は多分できないと思う。人口減少に対して何か動くとか、そのためにどういう対策を取るとか。キャッチフレーズは住みよい安心して暮らせる地域を作りましょうでいいと思う。具体的には、例えば、イベントをどうするか。地域の運動会を小学校がやらなくても、別にやるように持って行くとか、そんなことを考えたほうがよいのではないか。５つの項目をまとめてうまく進めるのは無理だと思う。水害対策は、地域でできる問題ではない。行政の力が必要である。

【高橋副会長】

この地域の特性をいかしたイベントや活動の推進という部分では、学校の桜や飯田川、

妙高山をバックにした田園風景等は、やはり地域の特性だと思う。地域の特性という言葉をいかすのはいい言葉だと思う。具体的に何かと言われた時に、こういうものがあるので、それを踏まえて他の団体と意見交換会等をして決める。事務局から案を出してもらい、それを参考に次回決める。その方向でよいか。

澤海委員、北諏訪まちづくり振興会との意見交換会の場を設けるとすると、開催時期はいつ頃であれば可能か。

【澤海委員】

これから理事会と評議員会を開催し、決めていかなくてはいけない。

【高橋副会長】

時間がかかると思われるが、地域協議会の次回開催予定は何月になるのか。

【小川係長】

６月下旬以降を予定している。

【高橋副会長】

そこまでにとなると、厳しい。

【小川係長】

事務局でまずキャッチフレーズの案を作成し、それを次回の協議会で協議していただいた後に、意見交換をしたほうがよいのではないかと思っている。

【澤海委員】

まちづくり振興会と、協議することを前提とするのであれば、事務局で今日の大体の案の案を作っていただき、協議してもらう内容を示してもらったほうが、理事会や評議会の話が進みやすい。

【高橋副会長】

確かにそのほうが話を進めやすい。今地域協議会でこういうことを協議していると。意見交換会は、まず、事務局の提案を見て、次回のこの地域協議会で皆さんと協議をして、その後、地域の団体との意見交換会という方向で進めていきたいと思う。北諏訪まちづくり振興会がまず一番の意見交換会の代表ではないか。細かい組織団体はあるが、ほとんどまちづくり振興会の中に入っている。まず、まちづくり振興会と協議をすれば、概ね話が進むと思われる。その方向で進めさせていただきたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会は、６月下旬以降の開催を考えている。日程については、会長と相談して、調整させていただき、決まり次第、開催案内をさせていただく。

市が取り組む「地域自治推進プロジェクト」において、地域における現状把握等のため、後日、地域協議会委員の皆様へ調査票をお送りする予定なので、ご協力をお願いしたい。

【高橋副会長】

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。